

インタビュー



今でもお客様に
驚かれます

上村萌登子さん

かみむら もとこ／昭和58年
生まれ。今年3月に市内の専門
学校を卒業し、4月からJR
幌別駅に勤務。

私は、駅員として働くつもりで就職活動をしていたわけではありませんが、駅での勤務とわかったときには、すぐに男性の職場というイメージがわいてきました。

でも、働いてみると、特に違和感もなく、女性だからといって仕事上の不都合もありませんでした。私が窓口や改札にいと、今でもお客様にめずらしがられたり、驚かれたりすることがありますね。頑張っていると声をかけてくださるお客様もいて、うれしくなります。

私も男性ばかりいるよりは、女性がいることによって雰囲気や和らげばと思いますので、窓口や改札など、駅の業務もこれから女性がどんどん進出していいのではないのでしょうか。



この職場は経験の多い人ばかり。私は4月から働き始めたので、失敗も多いのですが、一日も早く、お客様や上司、同僚から頼られる存在になれるよう頑張っていきたいと思います。

駅長からひとこと

JR 幌別駅

駅長 **川平一幸さん**

旅行センターや特急列車の客室乗務員など、女性が活躍する職場もありますが、旧国鉄時代から鉄道業務は男性の仕事との意識が根強く残っていると思います。

近年、(株)北海道ジェイ・アール・サービスネットが業務を委託される駅の増加とともに、少しずつ女性の駅員が配属されるようになりました。幌別駅の業務も平成14年から同社に委託されています。現在では、上村さんのほか、室蘭駅や白老駅でも女性の駅員が活躍しています。

上村さんの配属後、女性の声での構内放送の評判も良く、女性の視点で旅行パンフレットの配置などを改善したところ、駅の雰囲気が明るくなったとお客様から好評をいただいています。

介護の仕事に男女の
区別は関係ない

鎌田伸嗣さん

かまだ のぶつぐ／昭和48年
生まれ。室蘭市内の専門学校
を卒業後、平成12年4月から
介護士として登別市養護老人
ホーム恵寿園に勤務。



人の世話をすることが好きで、以前から介護の仕事には興味がありました。女性が多く携わっている仕事であることは知っていましたが、違和感なく職場にとけこむことができました。

介護福祉士の資格を取得するために通っていた専門学校でも、男子学生の人数も多く、介護や福祉という目指す進路も一緒でしたので、特別、介護が女性の仕事という意識はありませんでしたね。

介護や福祉の職場は、排せつなど個人のプライバシーに関わることを扱うことが多いので、女性なら細やかな配慮ができるのではとの理由で、長い間、女性の職場と思われてきたのではないのでしょうか。

実際に介護士として働いてみると、この仕事に男女の区別は関係がないことがよくわかりました。むしろ、入所者からは、部屋の網戸が外れた、テレビが映らないなどと頼られることが多いです。私の顔を見ていると元気が出てきたと言われると、うれしくなりますね。

恵寿園の男性介護士はまだ私一人です。これから男性の介護士が増えることで、男女が協力し合っている仕事になったら素晴らしいと思います。介護の仕事志す男性がいましたら、ぜひお勧めします。



園長からひとこと

登別市養護老人ホーム恵寿園

園長 **村上誠さん**

鎌田さんは、その人柄もあって、入所者から『鎌ちゃん』と呼ばれ親しまれています。入所者は女性の方が多いので、男性の介護士が相手の方が話しやすいこともあるようで、何かと頼られています。

性別をどたわらさず、性別にとらわれず、自分らしく生きよう

『ジェンダー』は、男女の生き方を制限するだけでなく、性差別の元になっています。男らしくするということは、人より一歩前に出て、頼りがいのあるところを見せることで、女らしくするということとは、つましくてしゃばらないということであり、『男が主で女が従』ということにもなります。

『男は仕事、女は家事育児』という性別役割分担もここから派生してきたものです。「でも、自分の人生は自分で切り開きたい」「自分の可能性は最大限伸ばしたい」そう思うことに男女の区別はないはずですよ。

しかし、現実の社会を見ても、家庭・地域・学校・職場などあらゆるところで、ジェンダーが生み出す差別に気がつくはずですよ。

そして、この『気づき』が、全ての人びとが持つ能力や可能性を性別にとらわれることなく発揮することができる、周囲もそれを認めることができるような社会を築く基礎となっていくはずですよ。

男性も女性も、性別にとらわれず、自分らしく生きていくことが大切です。性別や年齢の違いを超えて、男女が平等に、そして自分らしく生きていくために。